

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第十三回 「陶郷にて」(前)

民芸陶器の人間国宝、濱田庄司氏が昨日逝去されました。というラジオからのニュースを小耳に挟んだことがきっかけとなり、陶器の町・益子に足繁く出向くようになった。

当時、妻の里が東京郊外に在ったことで、盆と暮れには必ず妻子を連れ里帰りするのが習わしになっていた。その折の話がラジオからのニュースだったということだ。

ずっと後になって濱田の年譜を繰ってみると、それは昭和五十三年一月五日死去とあるので、一月六日のラジオニュースを里の近所に在った本屋の店頭で耳にしたことになる。

柳宗悦をリーダーとする民芸運動のあらましや、深く関わったイギリス人の陶芸家バーナード・リーチと濱田、京都の河井寛次郎、そして彼らによって世に出ることになった棟方志功と、これら優れた作家達にも深い興味はあったものの、三十五歳に

なつたばかりの私は生活の糧を得ることで汲々とし、益子も民芸運動も一連の作家達のことについて、行ったことも、見たことも、会ったこともなく、本からの知識だけが空転しているだけだった。

さて、妻の里を辞して東北道を北上し、宇都宮辺りで降りて益子へと東に向かって走った。

夕方着いた益子は正月中の初市とのこと、旅遊の人々は少なかつたが、数件の店を巡り歩いたのが、益子焼のあらましを体感した最初の経験だった。その後折にふれ、訪れた回数は多かつた。七十一歳を既に超えたことを思うと、私は人生の半分以上の時間を益子との関わりの中で過ごして来たことになる。好きな街なのだ。

一つはつきり分かることがあるのは、時代の影響か、エネルギーのトーンダウンはあるものの、新しい気風を旋風の如く吹き出しながら、陸続として若い作家を生み出し、古い作家達も十分顕彰しつつ、力強い

行つたのだ。

彼の存在は技術の伝承と改革、若い作家の養成、世界中からの民芸品のコレクション等々、壮大な気性は作品にも顕著であることは、人々の広く知るところであろう。

たとえば濱田によって世に喧伝されることになる掛け流し釉は一見単純なため、類似品が多数横行し、尚且つ見るべきものが無いという現実もある。

だが、若者達の擡頭は凄まじい。あらゆる方向への模索の姿勢は志が高く、観者の眼を射る。牙白磁で大成された廣崎裕哉氏の仕事ぶりには、近來稀に感ずるセンスと集中力、更に完成度の高さが私の心に深い感動と勇気を与えてくれる。



濱田庄司 「柿釉色差扁壺」



廣崎裕哉 「牙白磁 注酒器」



書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問



■法事会館及びホール

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて  
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。



やすらぎの杜 遠野  
〒972-0161 いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1  
TEL.0246-89-4777

虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設



KAMOME CLINIC

医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

かもめ・みなとみらいクリニック

横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

かもめクリニック

いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

かもめ・大津港クリニック

北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

かもめ・日立クリニック

日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531